

わが民よわが教訓をきく、わが口のたまはにみんがらをきかたけよ、われ口をひらきて譬喩をまらけ、いにしへの文藝ある語をかたりいでん、是れわが分業にさくしとこ、知しとこ、又わが分業に列祖のかたりつたへし所なり、われら之をわが子孫にかくさすニホバのもろくの頌美と能力とをのなしたまへる奇しき事跡とをきたたらんとする世につげん、ろハニホバの證詞をヤコブのうちにたてて律法をイスラエルうちに定めて、わが子孫おそすべきことをわがらの列祖にお得せたまはれたるなり、これ來らんとする代のうちに生るる子孫、かこを知らみ、つから起りて、わがのまら子孫、つたへ、かきらをして神にまらしたるのみ、わが神のみわざを忘れず、その誠命をまらしめん爲なり、またその列祖のたまはと頑固にして、わがもの類となり、そのころ、修せらば、そのたまはに神に思ふらざる類とせらるる爲なり、ニフライム、このわが武器とく、のへ弓をたづせ、しに戦ひの日に、うしろをうけたり、かれら神のちかひをまらさず、その食きてを履ことせ、いのみ、ニホバのなしたまへることを、かれらに示したまへる奇しき事跡とをわすれたり、神ハニホバの國にて、ゲヅンの野にて、妙なる事を、かれらの列祖のたまへになしたまへり、すなはち、海をさきて、かれらを通ぎし、水をつみて、堆かくしたまへり、ひるり雲をもて、かれらのみ、み、夜、夜、よも、す、から、火の光をもて、これを導きたまへり、神ハわれのおて、譬をさき、天なる淵より、汲がごとく、にかれらに、飲しめ、また、譬より、流をひきて、河のごとく、に水をなびせしめたまへり、然るに、かれら、罰を受、な、く、罪、深、を、か、して、神に、さ、から、以、荒野にて、至上者、に、う、む、き、また、鳥の、が、懲、のため、に、食、をも、と、めて、その、心、の、うち、に、神、を、こ、ろ、み、たり、然、の、み、な、ら、ず、か、れ、ら、ハ、神に、さ、から、ひ、て、い、へ、り、神ハ、荒野にて、懲を、も、う、け、たま、ふ、を、得、ん、や、み、神、は、は、を、撃、た、ま、へ、り、水、は、ど、ぞ、し、り、い、で、流、あ、ふ、れ、たり、糧を、も、あ、つ、た、ま、ふ、を、得、ん、や、神、ハ、その、民、

日曆十一節 本三十三節  
 一節 五十一節 本三十三節  
 二節 九十九節 本三十三節  
 三節 九十九節 本三十三節  
 四節 九十九節 本三十三節  
 五節 九十九節 本三十三節  
 六節 九十九節 本三十三節  
 七節 九十九節 本三十三節  
 八節 九十九節 本三十三節  
 九節 九十九節 本三十三節  
 十節 九十九節 本三十三節  
 十一節 九十九節 本三十三節  
 十二節 九十九節 本三十三節  
 十三節 九十九節 本三十三節  
 十四節 九十九節 本三十三節  
 十五節 九十九節 本三十三節  
 十六節 九十九節 本三十三節  
 十七節 九十九節 本三十三節  
 十八節 九十九節 本三十三節  
 十九節 九十九節 本三十三節  
 二十節 九十九節 本三十三節

のために肉をうなへたまはんと、この故にニホバ、これを開て、い、き、せ、は、り、た、ま、ひ、き、火、ハ、ヤコブに、む、か、ひ、て、も、あ、わ、が、り、怒、り、イ、ス、ラ、エ、ル、に、む、か、ひ、て、立、騰、れ、り、て、ハ、か、れ、ら、神、を、信、せ、ず、その、救、に、た、の、ま、さ、り、し、故、な、り、さ、れ、懲、な、神、ハ、う、な、る、雲、を、命、じ、て、天、の、声、を、ひ、ら、き、彼、等、の、う、へ、に、ヤコブを、も、ら、せ、て、食、は、し、め、天、の、糧、物、を、あ、つ、た、ま、へ、り、人、み、な、勇、士、の、糧、を、く、ら、へ、り、神、ハ、か、れ、ら、を、食、物、を、あ、り、て、飽、足、し、め、たま、ふ、神、ハ、天、に、東、風、を、ふ、か、せ、大、能、も、て、南、の、風、を、み、ち、び、き、た、ま、へ、り、神、ハ、か、れ、ら、の、う、へ、に、塵、の、ご、と、く、肉、を、も、ら、せ、海、の、沙、のごとく、翼、ある、鳥、を、も、ら、せ、て、その、懲、の、な、か、り、の、住、所、の、ま、と、り、に、殺、した、ま、へ、り、斯、て、か、れ、ら、に、食、ひ、て、飽、た、り、ぬ、神、ハ、これ、わ、り、の、欲、め、し、も、を、興、え、た、ま、へ、り、か、れ、ら、が、未、だ、ら、の、懲、を、は、な、れ、ず、食、物、の、赤、は、口、の、うち、に、あ、る、は、ど、に、神、の、い、か、り、既、か、れ、ら、に、對、ひ、て、た、ち、の、ば、り、彼、等、の、うち、を、最、も、て、之、た、る、者、を、こ、ろ、し、イ、ス、ラ、エ、ル、の、わ、か、り、男、を、う、ち、た、ま、ふ、し、た、ま、へ、り、これ、ら、の、事、あ、り、し、か、彼、等、ハ、か、は、罪、深、を、か、して、その、奇、し、き、み、わ、ざ、を、信、ぜ、ざ、り、し、か、バ、神、ハ、か、れ、ら、の、日、を、空、し、く、す、と、さ、せ、その、年、を、お、ろ、れ、つ、と、過、さ、せ、た、ま、へ、り、神、か、れ、ら、を、殺、した、ま、へ、る、時、か、れ、ら、神、を、た、づ、ね、歸、り、き、た、り、て、懲、方、に、神、を、ま、と、め、たり、か、く、て、神、ハ、島、の、れ、の、譬、い、と、た、か、き、神、ハ、島、の、れ、の、譬、主、ある、こと、を、お、も、ひ、い、て、たり、然、り、あ、さ、と、彼、等、た、ま、の、口、を、も、て、神、に、つ、ら、ひ、その、舌、を、も、て、神、に、つ、は、り、を、い、ひ、た、り、し、の、み、ろ、か、れ、ら、の、こ、ろ、に、神、に、む、か、ひ、て、堅、か、ら、ま、り、の、誓、約、を、ま、も、る、に、忠、信、を、さ、ら、せ、り、き、さ、れ、と、神、ハ、あ、は、れ、み、に、充、た、ま、へ、り、か、れ、ら、の、不、義、を、ゆる、し、て、亡、ぼ、した、ま、は、す、屢、々、の、み、い、か、り、を、轉、し、て、ご、と、く、り、惡、患、を、ふ、り、お、こ、し、給、之、さ、り、き、又、か、れ、ら、の、罪、に、お、こ、し、て、過、去、ハ、ま、た、い、び、歸、り、て、ぬ、風、を、も、ら、せ、い、て、給、へ、り、か、き、ら、ハ、野、に、て、神、に、う、む、き、荒、野、に、て、神、を、う、れ、し、め、し、て、是、幾、次、や、か、き、ら、か、へ、す、神、を、こ、ろ、み、イ、ス、ラ、エ、ル、の、聖、者、を、は、つ、か、し、め、たり、か、れ、ら、の、神、の、手、を、

日曆十一節 本三十三節  
 一節 五十一節 本三十三節  
 二節 九十九節 本三十三節  
 三節 九十九節 本三十三節  
 四節 九十九節 本三十三節  
 五節 九十九節 本三十三節  
 六節 九十九節 本三十三節  
 七節 九十九節 本三十三節  
 八節 九十九節 本三十三節  
 九節 九十九節 本三十三節  
 十節 九十九節 本三十三節  
 十一節 九十九節 本三十三節  
 十二節 九十九節 本三十三節  
 十三節 九十九節 本三十三節  
 十四節 九十九節 本三十三節  
 十五節 九十九節 本三十三節  
 十六節 九十九節 本三十三節  
 十七節 九十九節 本三十三節  
 十八節 九十九節 本三十三節  
 十九節 九十九節 本三十三節  
 二十節 九十九節 本三十三節

カ下二頁〇一  
 下二頁〇二  
 下二頁〇三  
 下二頁〇四  
 下二頁〇五  
 下二頁〇六  
 下二頁〇七  
 下二頁〇八  
 下二頁〇九  
 下二頁一〇  
 下二頁一一  
 下二頁一二  
 下二頁一三  
 下二頁一四  
 下二頁一五  
 下二頁一六  
 下二頁一七  
 下二頁一八  
 下二頁一九  
 下二頁二〇  
 下二頁二一  
 下二頁二二  
 下二頁二三  
 下二頁二四  
 下二頁二五  
 下二頁二六  
 下二頁二七  
 下二頁二八  
 下二頁二九  
 下二頁三〇  
 下二頁三一  
 下二頁三二  
 下二頁三三  
 下二頁三四  
 下二頁三五  
 下二頁三六  
 下二頁三七  
 下二頁三八  
 下二頁三九  
 下二頁四〇  
 下二頁四一  
 下二頁四二  
 下二頁四三  
 下二頁四四  
 下二頁四五  
 下二頁四六  
 下二頁四七  
 下二頁四八  
 下二頁四九  
 下二頁五〇  
 下二頁五一  
 下二頁五二  
 下二頁五三  
 下二頁五四  
 下二頁五五  
 下二頁五六  
 下二頁五七  
 下二頁五八  
 下二頁五九  
 下二頁六〇  
 下二頁六一  
 下二頁六二  
 下二頁六三  
 下二頁六四  
 下二頁六五  
 下二頁六六  
 下二頁六七  
 下二頁六八  
 下二頁六九  
 下二頁七〇  
 下二頁七一  
 下二頁七二  
 下二頁七三  
 下二頁七四  
 下二頁七五  
 下二頁七六  
 下二頁七七  
 下二頁七八  
 下二頁七九  
 下二頁八〇  
 下二頁八一  
 下二頁八二  
 下二頁八三  
 下二頁八四  
 下二頁八五  
 下二頁八六  
 下二頁八七  
 下二頁八八  
 下二頁八九  
 下二頁九〇  
 下二頁九一  
 下二頁九二  
 下二頁九三  
 下二頁九四  
 下二頁九五  
 下二頁九六  
 下二頁九七  
 下二頁九八  
 下二頁九九  
 下二頁一〇〇

わかれらわひかひて先祖のよこしをなわびを記念たまふかれ願くはみな各の憐憫をもて速かに  
 われらを迎へたまへわれらに慰されて甚だしく卑くなりたまふなりわれらのすくひの神よ名のせい  
 をよばざるもつゝの國のうへに烈怒をうきたまへかれらハヤコブを存するの住處をわらしたるを  
 とこしへに怒たまふやなんぢのねたき火のごとく燃ゆるか願くはみな各の憐憫をもて速かに  
 人あらしられ四周のいさよち侮られ嘲けらるゝものぞあれりエハバよ斯て幾何時をへたまふや汝  
 おたへるの血をエルサレムのめぐりに水のごとく流したりざれど之をさうむる人なしわれらに隣  
 て礮堆となりなんぢの僕のみかたねをうらの鳥も興へて餌となしなんぢの聖徒の肉を地のけものも  
 わり神よもつゝの異邦人なんぢの嗣業の地獄をかしなんぢの聖宮をけしエルサレムをこぼら  
 けり  
 第七十九篇 フサラのうた  
 くみをもて之をみちびけり  
 イラエルを救せたまへり斯てアヒラハのてこの完全なまがひてかれらを救ひし手のた  
 竿のながよりどり乳をおたふる牝羊にまたがひゆるか願くはみな各の憐憫をもて速かに  
 の聖所を山のごとく永遠さだめたまへる地のごとくお立たせりまたその僕アヒラハをえらびて羊の  
 せいなみエラハの旗をえらばすエマの旗のいつくしみたまふエマの山をえらびたまへり  
 く目ざめたまひての敵をうちまけりてこしへの扉をかれらに負せたまへりまたエマの幕屋  
 ハの聖のなげきだおせざりき斯るまよひぬがしり者のごめしごどく勇士の酒によりてさげすがごと  
 れらの處女ハの婚姻の歌によりて響らるゝことなくかれらの祭司ハつるきよて介れかれらの寡婦  
 にかれらに慰されて甚だしく卑くなりたまふなりわれらのすくひの神よ名のせい

一節 八〇二頁五  
 二節 八〇三頁五  
 三節 八〇四頁五  
 四節 八〇五頁五  
 五節 八〇六頁五  
 六節 八〇七頁五  
 七節 八〇八頁五  
 八節 八〇九頁五  
 九節 八一〇頁五  
 一〇節 八一一頁五  
 一一節 八一二頁五  
 一二節 八一三頁五  
 一三節 八一四頁五  
 一四節 八一五頁五  
 一五節 八一六頁五  
 一六節 八一七頁五  
 一七節 八一八頁五  
 一八節 八一九頁五  
 一九節 八二〇頁五  
 二〇節 八二一頁五  
 二一節 八二二頁五  
 二二節 八二三頁五  
 二三節 八二四頁五  
 二四節 八二五頁五  
 二五節 八二六頁五  
 二六節 八二七頁五  
 二七節 八二八頁五  
 二八節 八二九頁五  
 二九節 八三〇頁五  
 三〇節 八三一頁五  
 三一節 八三二頁五  
 三二節 八三三頁五  
 三三節 八三四頁五  
 三四節 八三五頁五  
 三五節 八三六頁五  
 三六節 八三七頁五  
 三七節 八三八頁五  
 三八節 八三九頁五  
 三九節 八四〇頁五  
 四〇節 八四一頁五  
 四一節 八四二頁五  
 四二節 八四三頁五  
 四三節 八四四頁五  
 四四節 八四五頁五  
 四五節 八四六頁五  
 四六節 八四七頁五  
 四七節 八四八頁五  
 四八節 八四九頁五  
 四九節 八五〇頁五  
 五〇節 八五一頁五  
 五一節 八五二頁五  
 五二節 八五三頁五  
 五三節 八五四頁五  
 五四節 八五五頁五  
 五五節 八五六頁五  
 五六節 八五七頁五  
 五七節 八五八頁五  
 五八節 八五九頁五  
 五九節 八六〇頁五  
 六〇節 八六一頁五  
 六一節 八六二頁五  
 六二節 八六三頁五  
 六三節 八六四頁五  
 六四節 八六五頁五  
 六五節 八六六頁五  
 六六節 八六七頁五  
 六七節 八六八頁五  
 六八節 八六九頁五  
 六九節 八七〇頁五  
 七〇節 八七一頁五  
 七一節 八七二頁五  
 七二節 八七三頁五  
 七三節 八七四頁五  
 七四節 八七五頁五  
 七五節 八七六頁五  
 七六節 八七七頁五  
 七七節 八七八頁五  
 七八節 八七九頁五  
 七九節 八八〇頁五  
 八〇節 八八一頁五  
 八一節 八八二頁五  
 八二節 八八三頁五  
 八三節 八八四頁五  
 八四節 八八五頁五  
 八五節 八八六頁五  
 八六節 八八七頁五  
 八七節 八八八頁五  
 八八節 八八九頁五  
 八九節 八九〇頁五  
 九〇節 八九一頁五  
 九一節 八九二頁五  
 九二節 八九三頁五  
 九三節 八九四頁五  
 九四節 八九五頁五  
 九五節 八九六頁五  
 九六節 八九七頁五  
 九七節 八九八頁五  
 九八節 八九九頁五  
 九九節 九〇〇頁五  
 一〇〇節 九〇一頁五

も敵より贖ひたまひし目をもおもひいでざりき神ハのもつゝの旗をエマにあらはし  
 しき事をツツの野にあらはしかれらの河を血にかはらせてその流を飲むたはざらしめまたエマの罪  
 をおくりてかれらにをくとしめ誰をかくりてかきらを亡ぼせたまへり神ハかれらの田産を盗賊にわた  
 しかれらの勸勞を誰にわたしたまへり神ハ電をもてかれらの葡萄の樹をからし霜をもてかきらの暴  
 の樹をからしその家畜をへらにわたしたるの罪をもゆる閃電にわたしたるの上にけしき怒どい  
 きさばりど怨恨どあやみど罪咎のつかひの罪をさけいだしたまへり神ハの怒をもちす道をさうけ  
 かきらのたまひを死よりさぬかきしめすのいのちを疲癯にわたしたるエマにてすべの初子を  
 うちまの幕屋にてかれらのカの船をうちたまへりされど鳥のれの名を羊のごとくに引いたしかれ  
 らを曠野にてけたもの群のごとくにみちびきかれらをももなひておうれなく安けからしめ給へり  
 されど海ハかれらの仇をおはへり神ハの聖所のさかひの右の手にて購たまへるこの山おかれら  
 を擧げたまへり又かれらの前にてもつゝの國人をおもひいだし絆縛をもちろの地をわかつて嗣  
 業となしエマの旗をかれらの幕屋にすませたまへり然ハわれ彼等ハいまだかき神をころ  
 み之にうむきてのもつゝの譴罰をまもらす叛きしりききてその列祖の如く眞實をうしなひくる  
 へる弓のごとくひるがへりて遠ゆけり高處をまうけて神のいきどほりをひき刻める像にて神の嫉妬  
 をおこしたり神ききたまひて甚だしくいかり大ホイスラエルを憎かたまひしかバ八々の間ににおきた  
 そひし幕屋なるツツのわげをりを無きりその力をとりてどならしめその衆光を敵の手にわたした  
 の民を剣にわたへるの嗣業にむかひて甚だしく怒りたまへり火ハかれらのわかき男をやくつくとしか  
 九百七十二







一 エホバの基きもとよき山やまにあり エホバエホバのヤコブヤコブのすべての住居すまひにまがりて エホバエホバの門かどを築たてしたまふ 神かみの都みやこよき山やまにたつきておほくの榮光さかひのこゝろを語りはせり 二 われハエホバのラハバラハバを

も我われをさるもの中なかおわけん 三 リモテエホバのヒヤを視みよこの人ひとかして生なれたかといはん 四 カンエホバにつきて如此かくいといはん 五 此この彼かのものの中にうまれたり至上たか者ものみつからしエホバエホバを立たせんとす 六

エホバエホバもろくの民たみをさるしたまふ時ときこのもの彼か處ところにうまれたり七 算かぞへあげたまへん 八 九 十 一

の踊まわるもの皆みないとんわぶもろくの泉いずみかんちちの中にありと

第八十八篇 エホバの調しらべにわたせて倫長うんちやうにうたはしめたるコラの子このう

二 たり讚美ほめなり 三 エホバのをしへの歌うたあり

一 わがすくひの神かみ エホバエホバよわが世書よせがきも夜よもなかなちの前にさげべり 願ねがひわが神かみをみよへおいらせ汝みづかのみとわが號呼なげのこゝろにかたよけたまへ 三 わがたましひの患難あやまにてみよ我がひのおの陰府かげふにおかづけり

四 わきり穴あないなるものどともにか入いらるまじひ候まをしき人のおどくあせり 五 わき臺たいのちちかある殺ころすまじもの

六 おどく死者しやのちちかある殺ころすまじもの

七 あり かんち我われをいとふかき穴あなくらし處ところふかき淵ふちにおきたまひき 八 かんちの怒いかりいたくわきせよせよ

九 あり かんち我われをいとふかき穴あなくらし處ところふかき淵ふちにおきたまひき 十 わが相識あはれものを我われよりよばせけ我われをかれ

らに憐あはれせたまへり 十一 わきり鋼かぶつ開ひらききていつるこゝろをたす 十二 わが眼まなこかあみの故ゆゑをもておどろく人ひとわ

き日ひごとに汝みづかをよべり 十三 エホバエホバよかんちに向むかひてわが兩手りやうてをのべたり 十四 かんち死者しやにくすしき事跡ことせきをわ

らしたまへんや 十五 亡なしにもの立てかんちを讀よめたる人ひとや 十六 汝みづかのいつくしみ慕ねがひのうちに汝みづかのま

九百八十八  
一 九百八十八  
二 九百八十八  
三 九百八十八  
四 九百八十八  
五 九百八十八  
六 九百八十八  
七 九百八十八  
八 九百八十八  
九 九百八十八  
十 九百八十八  
十一 九百八十八  
十二 九百八十八  
十三 九百八十八  
十四 九百八十八  
十五 九百八十八  
十六 九百八十八  
十七 九百八十八  
十八 九百八十八  
十九 九百八十八  
二十 九百八十八  
二十一 九百八十八  
二十二 九百八十八  
二十三 九百八十八  
二十四 九百八十八  
二十五 九百八十八  
二十六 九百八十八  
二十七 九百八十八  
二十八 九百八十八  
二十九 九百八十八  
三十 九百八十八  
三十一 九百八十八  
三十二 九百八十八  
三十三 九百八十八  
三十四 九百八十八  
三十五 九百八十八  
三十六 九百八十八  
三十七 九百八十八  
三十八 九百八十八  
三十九 九百八十八  
四十 九百八十八  
四十一 九百八十八  
四十二 九百八十八  
四十三 九百八十八  
四十四 九百八十八  
四十五 九百八十八  
四十六 九百八十八  
四十七 九百八十八  
四十八 九百八十八  
四十九 九百八十八  
五十 九百八十八  
五十一 九百八十八  
五十二 九百八十八  
五十三 九百八十八  
五十四 九百八十八  
五十五 九百八十八  
五十六 九百八十八  
五十七 九百八十八  
五十八 九百八十八  
五十九 九百八十八  
六十 九百八十八  
六十一 九百八十八  
六十二 九百八十八  
六十三 九百八十八  
六十四 九百八十八  
六十五 九百八十八  
六十六 九百八十八  
六十七 九百八十八  
六十八 九百八十八  
六十九 九百八十八  
七十 九百八十八  
七十一 九百八十八  
七十二 九百八十八  
七十三 九百八十八  
七十四 九百八十八  
七十五 九百八十八  
七十六 九百八十八  
七十七 九百八十八  
七十八 九百八十八  
七十九 九百八十八  
八十 九百八十八  
八十一 九百八十八  
八十二 九百八十八  
八十三 九百八十八  
八十四 九百八十八  
八十五 九百八十八  
八十六 九百八十八  
八十七 九百八十八  
八十八 九百八十八  
八十九 九百八十八  
九十 九百八十八  
九十一 九百八十八  
九十二 九百八十八  
九十三 九百八十八  
九十四 九百八十八  
九十五 九百八十八  
九十六 九百八十八  
九十七 九百八十八  
九十八 九百八十八  
九十九 九百八十八  
百 九百八十八

第八十九篇

一 われエホバの憐あはれをどしにうたはん 二 われ口くちもてエホバの眞實まことをよらう代しろにつげまらせん 三 われいふおれかみの永遠とこしえにたてらる汝みづかの眞實まことをかたく天あめにさだめたまへん 四 われわが撰えらびたるもの

と契約けいやくをむすびわが僕こひガビガビにちかひたり 五 われかなんちの裔いせをどしに固かたうし 六 なんちの座位ざいをたて

て代しろ々々およむしめん 七 エホバよもろくの天あめひなんちの奇あましき事跡ことせきをほめん 八 なんちの眞實まこともま

た懐なきものい會あひまにてはめらるべし 九 蒼天そうてんにてたれかエホバ 十 種類しゆれいふものあらんや 十一 神かみの子このなかに誰たれか

ホバのごとき者ものあらんや 十二 神かみひきよきものい公會こうかいのなかにて畏おそひべきものなり 十三 の四周しうしゅうにあるべて

の者にささりて懼おそるべきものなり 十四 萬軍ばんぐんの神かみ エホバよ 十五 汝みづかのごとき大能たいになるものい誰たれかや 十六 なんち

の眞實まことなるちをめぐりたり 十七 なんち海うみのある汝みづかをさめ 十八 の涙なみだのたちあがらんとさい之これをまづめた

まふかり 十九 かんちラハバラハバを殺ころされしものいおどく擊碎げんきおのれの仇かたをよを力ちからある腕うでをもて打敵うたしたまへ

り 二十 もろくの天あめひなんちのもの地ちもまた汝みづかのものあり 廿一 世界せかいどりの中にみづるものどらんなんちの基もとした

エホバのをしへの歌うた

九百八十九  
一 九百八十九  
二 九百八十九  
三 九百八十九  
四 九百八十九  
五 九百八十九  
六 九百八十九  
七 九百八十九  
八 九百八十九  
九 九百八十九  
十 九百八十九  
十一 九百八十九  
十二 九百八十九  
十三 九百八十九  
十四 九百八十九  
十五 九百八十九  
十六 九百八十九  
十七 九百八十九  
十八 九百八十九  
十九 九百八十九  
二十 九百八十九  
二十一 九百八十九  
二十二 九百八十九  
二十三 九百八十九  
二十四 九百八十九  
二十五 九百八十九  
二十六 九百八十九  
二十七 九百八十九  
二十八 九百八十九  
二十九 九百八十九  
三十 九百八十九  
三十一 九百八十九  
三十二 九百八十九  
三十三 九百八十九  
三十四 九百八十九  
三十五 九百八十九  
三十六 九百八十九  
三十七 九百八十九  
三十八 九百八十九  
三十九 九百八十九  
四十 九百八十九  
四十一 九百八十九  
四十二 九百八十九  
四十三 九百八十九  
四十四 九百八十九  
四十五 九百八十九  
四十六 九百八十九  
四十七 九百八十九  
四十八 九百八十九  
四十九 九百八十九  
五十 九百八十九  
五十一 九百八十九  
五十二 九百八十九  
五十三 九百八十九  
五十四 九百八十九  
五十五 九百八十九  
五十六 九百八十九  
五十七 九百八十九  
五十八 九百八十九  
五十九 九百八十九  
六十 九百八十九  
六十一 九百八十九  
六十二 九百八十九  
六十三 九百八十九  
六十四 九百八十九  
六十五 九百八十九  
六十六 九百八十九  
六十七 九百八十九  
六十八 九百八十九  
六十九 九百八十九  
七十 九百八十九  
七十一 九百八十九  
七十二 九百八十九  
七十三 九百八十九  
七十四 九百八十九  
七十五 九百八十九  
七十六 九百八十九  
七十七 九百八十九  
七十八 九百八十九  
七十九 九百八十九  
八十 九百八十九  
八十一 九百八十九  
八十二 九百八十九  
八十三 九百八十九  
八十四 九百八十九  
八十五 九百八十九  
八十六 九百八十九  
八十七 九百八十九  
八十八 九百八十九  
八十九 九百八十九  
九十 九百八十九  
九十一 九百八十九  
九十二 九百八十九  
九十三 九百八十九  
九十四 九百八十九  
九十五 九百八十九  
九十六 九百八十九  
九十七 九百八十九  
九十八 九百八十九  
九十九 九百八十九  
百 九百八十九